

山形・梅野木前1遺跡

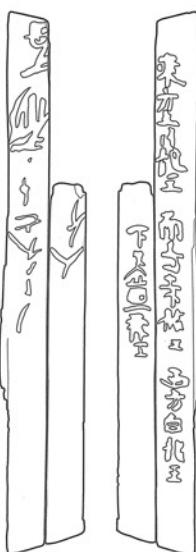
うめのきまえ

- | | | | | | | |
|---------------|-----------|-------|-----------|----------|-------------------|---------|
| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 遺跡の年代 | 遺跡の種類 | 調査担当者 | 発掘機関 | 調査期間 | 所在地 |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 古墳時代前期～中世 | 集落跡 | 須藤英之・國井 修 | 山形市教育委員会 | 二〇〇六年(平18) 一〇月～二月 | 山形市梅野木前 |

梅野木前1遺跡は、古墳時代前期から中世にかけての複合遺跡である。山形市内を流れる馬見ヶ崎川が形成した扇状地の扇端部付近

の微高地に立地し、標高は一〇五mを測る。大規模店舗建設に伴い、発掘調査を
9 関係文献
「株しまむら・山形市教育委員会『梅野木前1遺跡発掘調査報告書』(山形県山形市埋蔵文化財調査報告書二八、一〇〇七年)

木簡は、堅穴住居SI三七の覆土中より一点出土した。共伴する須恵器の年代観より、八世紀末～九世紀中葉のものと考えられる。



(須藤英之)

精読にあたっては、山形大学人文学部の三上喜孝氏、東北芸術工科大学の荒木志伸氏のご教示を得た。

報告書では二点でしたが、刊行後に保存処理を実施したところ、接合が判明した。上下両端は斜めに削る。円盤状の材を短冊状に割つて大筒二云月（よこつづか）。材重は5kg。又貫する玉二郎（たま）によれば、

8 木簡の釈文・内容

（1）
•「東方青龍王
南方赤龍王
下天黃龍王
西方白龍王